



シートベルトはあなたを守る

市内での着用率はわずか7パーセント

ドライバーの93%が、いざというときの「命綱」を無視している — 市交通課がことしの春、市内3カ所の主要道路で行った調査によるとシートベルト着用率はわずか7%。「たかが1本のベルトくらい」と

思いがちですが、シートベルトを着けていれば、死亡事故も10人のうち9人が助かるといわれています。

そこで、シートベルトの安全性について、もう一度考え直してみましよう。

時速60キロは
ビルの4階から落ちたと同じ

市交通課は、今年4月、5月、6月の3回、市内の鷹岡柚木線、吉原沼津線、富士鷹岡線でシートベルト着用状況調査を行いました。

その結果、調査台数1,853台のうちシートベルト着用ドライバーは、わずか6.9%の128台。

同乗者になるとなおよ少なく、423人のうち3.1%の13人しかいないことがわかりました。

自動車事故による死傷は、衝突した時、車内のハンドルやフロントガラスにぶつかって発生する1次衝突と、車のドアなどからほうり出され

て、路面や障害物に激突して起きる2次衝突があります。

時速60%で走っている車が壁に衝突すると、ビルの4階から逆さまに落ちるのに等しいといわれます。

また、昨年県内で起きた死亡事故の8割は、頭部、顔面、首筋の損傷が原因となっています。

死亡率を10分の1に減らすシートベルト

シートベルトは、体の上部を保護する目的で造られているので、前にのべた1次、2次の被害を最少限に食い止めることができます。

ある調査によると、シートベルト着用者は着用していない人に比べて、負傷の度合は半分であり、死亡率は10分の1だという数字がでています。

シートベルトの着用は、ドライバーの心得の第一歩です。とにかく一度つけてみてください。

衝突速度	衝	撃
40km/h	6 mの高さから落下した時の衝撃に等しい	
60km/h	14m	//
80km/h	25 m	//
100km/h	40m	//

グループ訪問

26

子どもの反応が楽しくって

人形劇団 ひろっぱ

「わあータカエちゃんげんきー」

「あれーごっちゃん久しぶり」

まるで週1回の練習日が、待ち遠しくてたまらなかつたといった騒ぎがひとしきり続く。

人形劇団ひろっぱは、平均年齢23歳とはちきれそうな若さ。現在女性7人、男性3人のグループである。

5年前から保育園の保育さんが中心となって、手作りの人形を持って地域の子供達の中へ入って活動している。

「近ごろの子供は、おとなしいって感じね」

「でも、劇の中にとけこんでくれる子供の反応がもう、楽しくって」そのことばに、みんながこっくりうなずく。



【人形劇団 ひろっぱのメンバー】

創作ものを1年1作のペースで手がけているとか。

「ネエ、口笛ミュージカル白雪姫やった時さ、口笛が出なくて…。アッハハハ」

笑い声がとにかく絶えない明るいグループです。

連絡先 後藤寿美子さん (今泉1870-2) ☎ 52-2871